

ふるさと楽舎 2023.10 活動報告



報告者／頼本 武夫さん(教育学科3年)
 日時:2023年10月14日(土)・15日(日) 9:30~16:00
 会場:広島市安佐北区大林町 休耕田周辺
 参加者:40名程度
 ボランティア参加大学生:10名(含 文教委4名)
 主催:一般社団法人 ふるさと楽舎

<活動内容>

- (14日) 稲刈り、農耕器具の試乗体験(コンバイン)
- (15日) 稲の乾燥、精米、運搬



<活動の感想>

豊かな自然に恵まれながらも高齢化・過疎化が進む安佐北区大林地区で、耕作放棄地となった棚田を耕し、米を作り、その米から地域の特産品となり得るお酒をつくるプロジェクトが続けられている一般社団法人ふるさと楽舎様。私は1年生の6月から参加を続け、今年が3回目の稲刈りとなりました。

毎年、数多くの方が一緒に参加されるふるさと楽舎での活動ですが、その中でも田植えと稲刈りは特別な日です。この日は、ボランティア希望の大学生や地域住民の方々に加え、地域の学校に通われている小・中学生も7名ほど参加し、協力して稲刈りを行いました。当日は農業器具メーカーの方も機械と一緒に参加されており、稲の手刈りだけでなく農業器具(コンバイン)の試乗体験もありました。稲刈りの後はお米を乾燥・精米する工程を実際に体験することが出来ました。

この活動の最も大きな学びとなるのは、普段私たちが何気なく食べているお米作りについていっただけの手間がかかっているか、体験を通して学ぶことができる点にあると思います。学校の体験授業や理科の授業で稲を育て、刈ったことがある方は多いと思います。しかしその後、稲がどのような流れでお米になっていくかを体験したことがある方は少ないかと思っています。体験して学んだことは自身の経験となり、それらの経験の積み重ねが自身の成長の大きな一助になるのではないかと、私はこの活動を通じて強く感じています。ぜひ、皆さんも私と一緒に豊かな自然に囲まれながら体験することの楽しさを感じ取ってみませんか。

